

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（A）  
 研究期間：2006 ～ 2009  
 課題番号：18252001  
 研究課題名（和文）環太平洋価値観国際比較—東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析—  
 研究課題名（英文）Pacific-Rim (Asia-Pacific) Values Survey- a statistical study on peoples' sense of trust-  
 研究代表者  
 吉野 諒三  
 統計数理研究所・データ科学研究系・教授  
 研究者番号：60220711

研究分野：社会学 B

科研費の分科・細目：統計科学

キーワード：信頼感、国際比較調査、アジア・太平洋、環太平洋、データの科学、国民性、統計的標本抽出調査、文化多様体解析（CULMAN）

## 1. 研究計画の概要

1) 本研究では、以下の a)、 b)、 c) に重点をおいて研究を遂行する。

a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するため

に、環太平洋諸国の人々の意識構造について

統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査

を遂行する。

b) 特に、21 世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。

c) 収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等を含むデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

## 2. 研究の進捗状況

4 年計画の 3 年目を終了し、予定どおり、環太平洋の調査対象地域のすべての国々の訪問面接法による意識調査のデータが収集された。同時に、各国の統計的標本抽出方法の詳細が判明した。

## 3. 現在までの達成度

②おむね当初の計画取り進んでいる。

（理由）上記 2 のとおり、データ収集や調査法に関する知見の収集が順調に進行している。また、計画の実査はすべてが完了した。

## 4. 今後の研究の推進方策

(1) 計画の最終年度となる平成 21 年度において、これまで蓄積してきた各国の調査

の方法論の検討比較、国際比較調査データの解析を遂行し、総合報告書を作成する。

(2) それに平行して、学会発表の特別セッションや学術雑誌の特集号を組み、研究成果を順次発表していく。

(3) また、ホームページ等での調査データの公開を進める。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

[雑誌論文] (計 41 件)

1. 吉野諒三 (2008). 「科学的」世論調査の価値-歴史と理論と実践の三位一体. 日本統計学会誌、37, 2, pp. 279-290. (2008). (審査有)

2. 吉野諒三 (2008). 「国民性」と環境問題 ---文化の多様性を受け入れる政策立案のために---. 環境情報科学 37, 1, pp. 21-26. (特集号) (審査有)

[学会発表] (計 54 件)

1. Yoshino, R. CULMAN (Cultural Manifest Analysis) -- Methodology of Longitudinal & Cross-National Comparative Survey of National Character. International Conference on Survey Methods in Multinational, Multiregional, and Multicultural

1 Contexts (3MC).

June, 27, 2008. Berlin, Germany.

[図書] (計 29 件)

1. 吉野諒三. 日本評論社. ソーシャル・  
キャピタルの潜在力(稲葉編) 第1章「信  
頼の国際比較」. 統計数理研究所  
2008. 総247ページ (内 pp31-53執筆)
2. 吉野諒三編. 東アジア国民性比較-デ  
ータの科学-. 勉誠出版. 2007.  
総383ページ

[その他]

新聞掲載

1. 朝日新聞 2008 年 3 月 21 日朝刊 8 面  
コメント記事
2. 朝日新聞 200 年 12 月 8 日夕刊 1 面  
「民の心を測る」⑧インタビュー記事

統計数理研究所ホームページの研究紹介  
国際比較調査

<http://www.ism.ac.jp/~yoshino/>